

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム野楽里

作成日: 平成 30年 2月 9日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2 (2)	◎地域とのつながりが足りない 地域から施設、施設から地域へという繋がりを持っていく必要がある。	地域の活動、施設の活動に参加できる	・地域の年度始めの会合に参加し、年間計画を把握また施設の計画も報告し予定を組み、参加していく。 ・施設の活動開催前に回覧などを回してもらい、地域住民の参加を促していく。	12ヶ月
2	23 (9)	◎入居者本位の生活ではなく職員優先で仕事をこなしてしまう時がある。 特に「やりたい」が表に出ない入居者の現状・可能性のアセスメントが必要である。	一人一人の「やりたい事」「できる事」の確認と再発見をし、ケアに反映する	・センター方式B-3を更新していく(適宜)。 ・情報を記録に残し共有。 ・入居者担当職員が主になりケアに反映していく。 ・「やりたい事」が「本人ができない」「体制的にできない」時、評価し、再アセスメントをする。	12ヶ月
3	33 (12)	◎重度化や終末期に向けた取り組みができていない。 かかりつけ医に看取り時、往診が可能かなど確認をしておく必要がある。	看取り対応の知識を学ぶ。又、円滑な協力体制の確保	・勉強会を年1回開催。又、対象者ができたときは再度確認する場を作り共有し、同じ気持ちでケアしていく。 ・書類作成 ・受診時、同行し確認をとり、どのようにしていくか家族と話し合いの場を持つ。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。